

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0395
施設名	光明第六保育園
施設所在地	あきる野市留原 5 0
法人名	社会福祉法人多摩養育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

【自然】動物村

- ・様々な動物がいることを知る。
- ・普段触れる機会が少ない様々な動物に触れ合うことで、動物に触れる時の力加減や餌やりの仕方などを知る。
- ・動物の名前や食べるもの、鳴き声、特徴などの違いを知る。
- ・生きている動物と直接触れ合うことで、「命」を肌で感じる。

<テーマの設定理由>

・生きている動物に間近に実際に会い、触れ合うことで、写真や図鑑では感じるできない、命や鼓動、温もりを感じられるように今回の自然の中の「動物」というテーマを設定した。小さな生き物に対して優しく接さなければならない気持ちも学べると思った。怖がってしまう子も、職員や友達が関わっているのを見て少しずつ関心を持てるように考えた。

2. 活動スケジュール

- ①事前に動物の写真や図鑑を一緒に見て好奇心、興味、関心をもてるようにする。
- ②実際に触れ合うことで、生き物の細かいところ（声、毛など）まで観察をする。（9月3日）
- ③実際にみることで感じた疑問を質問し、理解しようとする

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ①導入・事前準備。
図鑑の購入、絵本、紙芝居を用いて興味を持てるように働きかけた。
- ②餌の準備。（にんじん、きゃべつ等→園や家庭より持参）
- ③メイン活動。大型動物への餌やり、小動物とのふれあい（9月3日実施）
- ④手洗い・消毒（石鹸、ペーパータオル、ゴミ袋）

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・移動動物園の開催
- ・図鑑を用いて、事前に、どんな動物が園に来るのか乳児～幼児までみんなで話す機会を設けた。
- ・ヤギやモルモット、ウサギ、ヒヨコなど、普段あまり触れることのない動物が普段遊んでいる園庭に遊びに来るということで、子どもたちも当日をととても楽しみにしていた。
- ・乳児組の子どもたちは怖がってしまうと想定していたが、0歳児も保育者と一緒に触れようとしたり、餌をあげようとしたり楽しみ、1歳児以上の子ども好きな動物の場所に行き、触れ合いを楽しんでいた。
- ・幼児クラスの子供たちは、動物に対しての触れ方などをきちんと理解しており、力加減を調整しながら触れたり、餌やりを楽しんでいた。本物を前にして、鳴き声の大きさ、体の温もり、独特の匂い、毛の質感を五感をフルに働かせて確かめていた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

乳児クラスの子供たちは、力加減が難しい姿も見られたので、そばに付いて「優しく触ろうね」などと声を掛け、保育者が見本を見せることで、同じように触れようとする姿がみられた。幼児クラスの子達は、初めにスタッフの方に触り方などを教えてもらうことで、「優しく撫でるんだよ」などと、動物への接し方を子ども同士で教えあい、いたわりの気持ちを共有している姿もみられた。「ふわふわしてて、あったかいね」「ちょっと臭いね」などと実体験ならではの素直な感覚を言葉にしている。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

「ウサギの耳が動いた!」「モルモットの足は短いね」など図鑑では気付かない細やかな動きや質感に子ども達が自発的に気付く姿に驚かされた。実体験による「本物とのであい」が、いかに視覚・聴覚・触覚を刺激し、探求心を揺さぶるかを再認識した。「〇〇はこんなだったね」「〇〇はもっと大きいと思った」などと、事前に図鑑を見て、みんなで思いを共有していたことで出てくる言葉もあった。